

シンガポールの家庭学習について

北白石中学校 黄木 麻有

私は教育先進国で知られるシンガポールの中でも、上位10%の成績を出している学生の家庭学習について知るためこのテーマにしました。

事前にインターネットを使って調べて分かったのは、シンガポールの学生(15才)を対象としたアンケートでは平均でも1週間に合計9時間以上でした。

私はシンガポールでパートナーとパートナーのクラスメイトに普段どのくらい家で勉強しているのか聞きました。毎日3時間~5時間勉強している人は3~4人くらいで、ほとんどの人はテスト前以外勉強しないと言っていました。私が事前に調べていた結果と全然違くてびっくりしました。



←宿題をしているパートナー

ナショナルデー☆



《おわりに》

私は今回シンガポールでTさんの人と関わり、東京や青森など本州からの高校生ともたくさん話をして、もっと自分がやりたいことを積極的に挑戦しようと思えるようになりました。留学で得た経験の数は想像以上に多く、その経験を中学生のうちでできたことは私にとって大きな財産であり、これからの人生に生かしていこうと思いました。



シンガポールの教育について

札幌聖心女子学院中学校

加世田 紗衣

シンガポールはアジアトップクラスの学力を誇る国家であり、その国がどのような教育制度を取り入れているのか、日本と違う点はあるのか調べてみたいと思い、このテーマにしました。

まず事前に教育制度について調べ、現地に着いてからホストファミリーや学校のクラスメイトに質問しました。

シンガポールの学生は常に学校にノートパソコンを持っていき、授業で使うことも多かったです。先生が各生徒のパソコンに宿題を送ることも珍しくなく、生徒によってはノートを取らずパソコンを使いメモをする人もいました。



シンガポールでは小学6年生の時に進路の振り分けテストがあり、振り分けテストの結果によって自分が通うことになる中学校が決まります。シンガポールではこのテストで将来が決まると言われているくらい、とても重要なテストだそうです。私のパートナーの兄弟も振り分けテストを控えており、毎日勉強をしていました。シンガポール人は小学校の時点で英語と第二言語を選択し2つの言語を学びます。中学校では第3言語の選択が可能になります。

このように小学校から厳しい選別が行われているからこそハイレベルな人材が多く生まれるそうです。しかし、小学校のころから振り分けを行うことで格差社会が生まれてしまうこともあり、現在、シンガポー

ルではこの格差が問題視されているそうです。

今回、シンガポールに行きインターネットでは知ることができなかったことを調査することができました。現地の人々が教育制度に対しどのように思っているのか、シンガポールの教育制度にも課題点があったことなど、様々な人から情報を得ることができました。

シンガポールの教育制度について調べたことで、他の国々の教育制度について、また、これから重要とされている若い世代の人材の育成について、他の国々ではどのように取り組んでいるのか、とても興味がありました。

このような貴重な学びの場を与えて下さった札幌市子ども未来局の方々、現地で様々なことを教えてくださった皆さんに深く感謝いたします。多くの学びと新たな発見にあふれた、とても有意義な又週間となりました。



ユリがポールの習い事について

八条中学校

加藤 大翔

〔はじめに〕

僕は小学生の頃から色々な習い事をしてきました。

そこで、ユリがポールの習い事について調べてみました。

〔ユリがポールでの調査結果〕

ユリがポールでは色々な習い事がありました。

そのなかでも、水泳をやっている人が比較的多い

事が分かりました。

その理由は、ユリがポールにはほとんどの家に

プールがついていて、その家のプールに先生が
来て教えてくれます。

その他には、バスケットボールやサッカー・日本語・中国語
を習っている人がいました。

右の写真は バスケットボール

を習っている様子です。

プールがプールは一年中夏なので

ほとんど学校に体育館が無い

そうです。写真のバスケットコート

も外に設置されていました。



左の写真は、僕のホストの

マンションにあるプールに

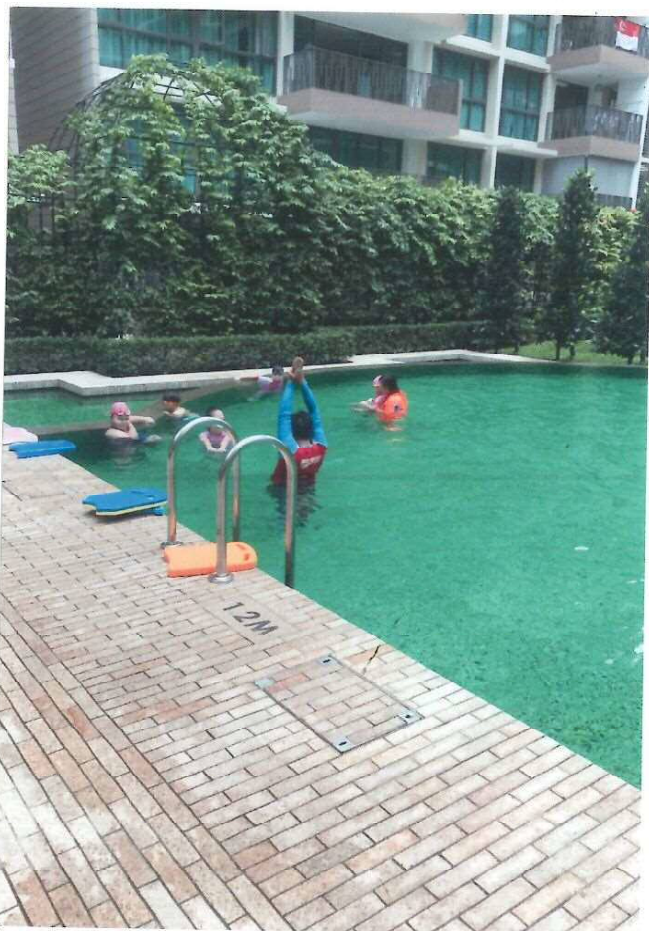
先生が来て教えている

様子です。

プールでは、小学生から、

中学生までが水泳を

習っているそうです。



シンガポールの子の将来の夢

テーマ決定の理由

シンガポールの子は小さい頃から母国語以外の言語を学んで勉強もものおどく頑張っていると聞いたので、そういう子の「将来の夢」や頑張っている事を聞いて自分の参考に使いたいと思ったから

あやめ野

中学校

川崎良美

シンガポールの子に聞いてみた！ 将来の夢・理由・努力している事

夢	何でその夢なのか	そのための努力
ゲームに関わる仕事	ゲームが好きだから	たくさんゲームをする
ゲームデザイナー	ゲームが好きだから	ゲームを頑張る
政府関係者(弁護士)	人の役に立ちたいから	勉強
医者 か 作家	いろいろな話を伝えたい	作文練習 文学勉強
医者	親の影響	クリニックを手伝う
医者	人の頭に興味がある	勉強
数学の先生	数学が好きだから	たくさん勉強する
特に無し		勉強(歴史)
教師		勉強
良い人になる		

私のクラスメイトに聞いた将来の夢

- ・○○選手×5人
- ・公務員×3
- ・保育士
- ・剣道・三味線教師
- ・医者
- ・病院の事務
- ・モデル
- ・スポーツ・美容関係者
- ・指揮者
- ・ゲームクリエイター
- ・YouTuber
- ・一級建築士
- ・警察
- ・○○高校に入る
- ・薬剤師

調べた結果感じた事

- 教育熱心だから、日本で、でてくる答えとは違う職業を想像していましたが、実際は日本と変わらない事に気がきました。
- クラスの雰囲気も変わりませんでした。
- 授業も似た感じで、どうして似ているのに学力がトップレベルなのが疑問に感じました。

調べた上での違い

- 日本では多くの子が塾に通っているが、シンガポールの、自分の周りにいた人は通っている人は^{ゼロ}でした。
- 日本は部活やクラブを頑張っている人が多いが、シンガポールは部活関係を頑張っているといった人は一人もいませんでした。



多民族国家のシンガポールは、すてきな所がいっぱいありました。同時に、シンガポールに行って日本の魅力をもっと感じる事ができました。



私の将来の夢は、
まだありません。ですが、日本だけでなく世界の人の役に立てる職業に就きたいと思って英語を頑張っています!

~新琴以北中学校・川端ひなの~

シンガポールの日常的な食文化について

日本との食文化の違いを知りたくてこのテーマにしました。

シンガポールは多民族国家で、中国系・マレー系・インド系、などがあります。
公用語は中国語・マレー語・英語・タミル語の4種類あります。
食事の作法については、宗教の違いもあると思いますが、箸とスプーンで食べていました。スプーンの上に箸でごはんやおかずをのせて食べていました。スプーンだけ、箸だけ、ということはありませんでした。

シンガポールは日本と違い、大皿料理で、みんなで取り合って食事をしました。食事のメニューも、ごはん・スプ+おかずが4~5種類ほどありました。日本の倍くらいのメニュー数で、しかも大皿なので、全て食べきれず、毎回残っていました。

シンガポールの調味料にはチリソースがありました。
家庭でも店でもチリソースは出てきました。チリソースは日本でいう醤油的な感じの調味料です。

日本料理はたいてい味をつけたり、多数の調味料を使いわけたりして一つの食事の味をととのえています。しかしそれは日本だけで、シンガポールは焼く、煮る、炒める、揚げる、などをして、最終的な味付けは、シンガポールのチリソースで自分の好きな量をつけて食べます。チリソースをつけると味はほぼ同じになりますか！逆にソースをつけないと素材の味を楽しめました。

シンガポールは外食が多いイメージですが、日本よりは多いですか。実際行ってみて、思ってたよりも多くないなというのが印象的でした。15日間ある中で外食は9回でした。その内2回は入国日と出国日で、時間的に外食しかできなかったのが本当に少なかったです。(夜のごはんで)

シンガポールで一番思っていた深いのは札幌グループ6人とそのパートナーでカラオケに行ったことです。札幌グループの人たちだけじゃなく、パートナーたちとも沢山の会話ができました。

シンガポールの人たちが知ってききなJ-POPで12人で歌ったり、写真をとったりして、本当に楽しかったし、最高の思い出です。

最終日、ホストファミリーと別れるとき、空港の日本食店に行き、ファミリー達と写真をとりました。

最終日の別れる日は、たんだん時間が過ぎるにつれて沢山の思い出が出てきて、帰りたくなくなりました。

私が今回学んだことでは、コミュニケーション能力の大切さです。私は、英語が得意だ"と思いこの研修に参加しました。ホームステイ初日に言語の壁にぶつかりました。しかし、1日目を過ごしていくうちに、言語だけではなく、表情、ジェスチャー、その場の様子、また一緒にいたり、うたをうたったりすること、コミュニケーションがとれることを学びました。これからは、さらに英語力をつけ、世界中の人達とコミュニケーションがとれるようにがんばっていきま"と覚悟をします。



シンガポールの小説(文学)について。

手稲東中学校 國中主

<はじめに>

私が日本文学がとて好きなので、シンガポールではどんな文学があるのか、日本文学がどれだけ浸透しているのかを調べました。

調査方法は、シンガポールの図書館・書店に行く。
ホストファミリーやバディの友達に好きな小説・小説家について聞く。

<シンガポールでの調査結果>

シンガポールの文学

図書館に行って調べると、「英語」・「中国語」の本が主流でした。

・「英語」の本…横書き、左に開く。

・「中国語」の本…縦書きが多い。縦書きは右に開く。横書きは左に開く。

「ヒンドゥー語」・「マレー語」の本もありました。(横書き、左開き)



or



シンガポールでの日本文学

日本の書籍も幾つか見つけました。「図書館戦争」(有川浩)、「十角館の殺人」(綾辻行人)や、「何者」(朝井リョウ)など、色々なジャンルのものがありました。

日本語の本は中国語に訳されているものが多かったです。

「窓ぎわのトットちゃん」(黒柳徹子)英訳版が書店のランキングで8位に入っていて、驚きました。

日本文学はあまり浸透している様子はありませんでしたが、少しは知られていました。

シンガポールでの調査をとおして

図書館や書店に行ってみて感じたことは、どちらも言語によってコーナーが分かれていて、日本と違う!と驚きました。

図書館はとて広い上に、館内にカフェテリアがあったり、とても使いやすくなっていました。

書店には本の他には、文具や玩具も置いてあり、工夫を感じました。

ポケモンのマンガやコナンのマンガを熟読している人がいて、マンガの浸透を実感しました。

シンガポールでは、本を読む習慣があまりありませんでしたが、図書館に行ってる人を見て、本が好きな人を見た気がして、嬉しくなりました。

シンガポールの中学生はスマートフォンで暇をつぶす人が多かったですが、本を読んでいる人が増えればいいな、と思いました。



<まとめ> - 日本文学・人気のジャンル・読書習慣 -

シンガポールは「日本文学」のような「シンガポール特有の文学」という考え方が少なく、「どの言語か」が重視されていました。

「人気のジャンル」と聞かれると少し困ります。小さな子供はスマートフォンを持っていないので、小さな子供は本をたくさん読み、すなわち「絵本」が多いと思います。

日本でも読書習慣の少なさが嘆かれています。

シンガポールの中高生も読書習慣が少なく、本の必要性をあらためて自分に問う機会になりました。



★中国語版「図書館戦争」

電車で
見つけた
「ドリアン持ち込み禁止」→



★海辺にたくさんいた
カブトガニ

シンガポールの歴史について

市立札幌開成教育学校 酒井 悠佑

〔はじめに〕

今回シンガポールへ行く際、丁度学校でシンガポールの歴史について学んでいたため、現地でしか学べないことがあり、それによって学習が深められると思い、このテーマを選んだ。

〔事前調査の結果〕

事前調査では、シンガポールは1823年にトーマス・ラッフルズの功績によりイギリス領となり、第二次世界大戦中には日本の領となった。戦後マレーシア領となったシンガポールだが、追い出される形で1965年に独立し、その後初代首相リー・クアンユー氏によって、現在のような発展した国となっている。

〔シンガポールでの調査の結果〕

シンガポールでは、ホストファミリーに頼み、シンガポールのナショナル・ミュージアムへ連れて行かせて頂いた。

実際に重要な資料をこの目で見ることで、多くのことを知ることができた。特にシンガポールが日本に支配されていた時代のひどい実態を知ることが出来た。その中でも、「シンガポール初代首相のリー・クアンユー氏は、若い頃日本兵に捕われ、同時に捕われたもう一人の友人は殺されてしまった。」という逸話で、このようなことは日本で調べてもほとんど見つか

らず、シンガポールの歴史とともに、支配する側と支配される側の伝え方の違いも知れ、日本も多くの人の命をうばってしま、たということを重ねて、し、かりと後世に伝えて行くべきだと思っ た。



▲ イギリス植民地時代の展示



▲ 日本植民地時代の展示

〔おわりに〕

2週間シンガポールで生活してみて、日本と外国の生活様式の違いについて、改めてよく知ることが出来た。

特に驚いたのは学校で、50mプールや、売店、ファストフード店など、日本の学校ではあまり見えない施設がそろつもあり、教室も広かった。

この派遣を通して、自分の英語が海外でどれくらい通用するのかを実感できたとともに、文化の違いをこの身で体験することで、これからどう日本に来る海外の生徒と話して行くかを考えられた。

シンガポール市街中心部と学校校舎の一部

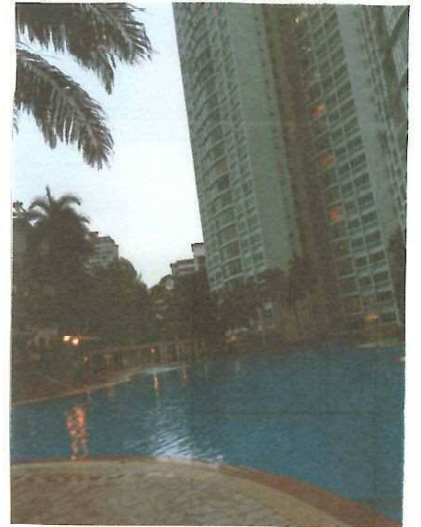


シンガポールの日常的な建造物について

市立札幌開成中等教育学校
佐藤 玲奈

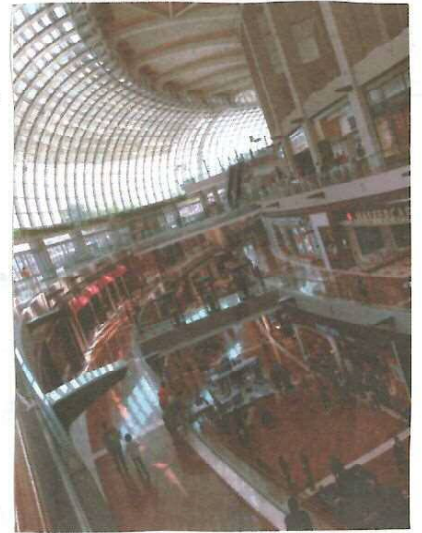
このテーマにしようと思った理由は、住宅やショッピングモール、駅などの普段何気なく利用するであろう建造物から、シンガポールの生活の特色を知ろうと思ったからである。

まず、住宅についてだが、国民の8割はHDBと呼ばれる公団住宅に住んでいる。その他には、コンドミニアムと呼ばれる高層住宅や戸建てが主な住宅として挙げられる。私のパートナーの家はコンドミニアムで、右の写真はその住宅である。プールやジム、バスケットコートなどもあり、幅広い年齢層の方々が利用していた。また、入口には24時間体制でセキュリティも置かれ、かなり整った環境となっている。日本では考えられない広大さに、大変驚いた。また、ほとんどの住宅が高くなっているのには、シンガポールは土地が狭く、人口密度が高い国であるためという理由がある。



左の写真はMRT(地下鉄)の駅である。非常に清潔感があり、利用者を気遣ったつくりになっていると感じた。乗降口はゲートで閉ざされており、電車が到着すると開く仕組みとなっている。これは、日本より安全な上、電車による雑音が少なく、非常に良いと思った。また、各路線毎に色分けされていたり、駅の番号がついていて、乗り換えに便利となっている。路面図は、全ての路線と駅名が示されており、分かりやすく、土地が狭いという国の特色も感じることができた。

右の写真は、ショッピングモールである。内部も外見も、それぞれのショッピングモールで違ったデザイン性があり、面白い。また、どのモールも非常に広く、高級感を漂わせたものが多いと感じた。店も有名なブランドのものも多くあるが、所々にカジュアルな店もあり、楽しめる場所であった。



今回のシンガポールへの派遣で、異国の文化に実際に触れることができ、一つ一つのことが新鮮で、心の底から楽しむことができた。この経験をこれからの生活に生かしていけるよう、好奇心を持って物事に取り組み、様々な「良さ」を発見していきたいと思う。

School Life in Singapore

～シンガポールの学校生活について～

北海道教育大学
附属札幌中学校

瀧澤 理生

シンガポールは教育に先進的な国であるため、どのような学校生活をシンガポールの子供は過ごしているのか気になり、日本との違いを発見したいと思ったのでシンガポールの学校生活について調べました。



〈事前調査〉

○シンガポールの教育方針

小学校…6年間(義務教育) 中学校…4～5年間 大学進学課程…2～3年間

生徒が自分のペースで将来の可能性を最大限に育む、
故課後や休み時間に課外活動。バイリンガルな教育政策。

〔シンガポールでの調査〕

実際に学校へ行き、シンガポールの学校生活を体験したり、バディーに話を聞いたりして調査しました。

シンガポールの学校は、初めに2時間授業があり、その後大きな休憩がありました。その休憩時間は食堂に行き、ご飯を食べたりなど自由なことができます。その後は3時間授業があり、1日が終わります。学校の1番初めには朝礼があり、全校生徒が学校の体育館に集まり、先生のお話などを聞きました。授業の雰囲気は、自由に生徒が先生に質問をなげかけたり発言をしている姿が多く見られて驚きました。授業は1人1台、自分のiPadをもち、iPadを使います。また、ホワイトボードにスライドを映して先生が説明をしたりしていました。授業の中で生徒が挙手して発表をしたりはせず、先生が質問をなげかけて、それに自由に生徒が答えていました。生徒の授業に対する姿勢が積極的なのが良かったです。

さらに、校舎の広さにも圧迫しました。中学校とは思えないほど広くてびっくりしました。クラスも多し、施設が整っていてすごかったです。



中国語の授業。中国語の他に、英語の授業とマレー語の授業もある。

そして、何より私が驚いたのは、日本と比べて何をしても良いということです。日本の学校は、携帯も持ち込むのが禁止されていたり、持ち込める学校でももちろん授業中は使用できません。しかし、シンガポールの学校では休憩時間に携帯を使用したり、動画を見たりすることが許されています。ピアスを耳につけて登校してくる生徒も多く見られました。



2017/08/07



2017/08/14

〔まとめ〕

今回の調査で私は、シンガポールの学校と日本の学校の違いに驚かされる事がたくさんありました。

国が違うだけで学校生活の習慣も全く違い、その違いを肌で感じられて良かったです。

学校に行くと、すごく緊張していた私にたくさんの友達が声をかけてくれて嬉しかったです。私が行った南洋女子中学校の生徒のみんなは面白い人ばかりで、3日間の学校生活をすごく楽しめました。

一方で、日本の学校もこうあるといったということもあって、シンガポールの生徒達を見て、これからの自分に生かせることもたくさんあり、色々な発見がありました。

～15日間のシンガポールでの研修を終えて～

初めに私がシンガポールに対してもっていた知識はわずかで、マレーオンが有名であることや、多民族国家であるということぐらいでした。しかし、シンガポールで14日間、生活習慣を体験したり、文化の違いを肌で感じ、日本との違いをたくさん感じられました。シンガポールはこんな国だということは言葉で表現することは難しいけれど、生活を送っている中で分かり、感じられました。国際感覚を身につけられたともいえるけれど、日本に留まっていたら見ることが限界な世界をシンガポールで肌で体験して、広い視野で見る事ができるようになり、物事を新しい視点で考えられたり、広く捉えることなど、成長できました。

現地の人とコミュニケーションをとることは、一番苦労しました。でも、伝えたいという気持ちがあるだけで心が通じたりしました。同じ年代の子と同じ夢をもっていたりして、住んでいる国は違っても、自分の夢に向かってお互いに努力をしていることを知りました。シンガポールに対してのイメージもふくらみ、たくさんの思い出もできて、本当に良かったです。初めは苦労することもたくさんあり、どうなるのか心配でたまりませんでした。仲間と助け合ったりしてたくさんを学ぶことができました。!



ツンガホールから 木しゆ晃はどう見えているのか

木しゆ晃市立羊丘中学校

田中 隼平

(はじめに)

・テーマ決定の理由

僕たちはいつも一人称視点でしか木しゆ晃を見ても見てなく、北海道に住んでいない人からはどのように見えているのか知りたかったから。

・事前に調べたこと

インターネットなども使い木しゆ晃の観光地や人気のグルメを調べた。

(ツンガホールでの調査)

・調査方法

ツンガホールの人達は木しゆ晃をどう思っているかパネルを使って聞きこいた。

・調査結果

ツンガホールの人たちは木しゆ晃の事を、「都市としても発展しているし、自然が多くてツンガホールと似ている。」と言っていた。さらに、日本に関する知識も豊富で、地図上で木しゆ晃が日本のどこあたりに位置しているのかさえも知っていた。

* Wikipediaより引用



(まとめ)

・言周査を終えこの感想

今回の言周査では、あまり多くの人に質問するこじができた。小情報が不正正確なものになってしまった。それが今回の言周査の失敗文の一つだ。得られた小情報の中から結論を出すツンガポールの人たちは木し中晃に文おしてなんらかの親近感を抱いているという事だ。ツンガポールは都市

と自然が融合し、人々の心情でおふれしている国だ。そんなツンガポールがこの木し中晃を以ていってこけるのはとてもありがたい事である。そしてこれから都市と自然の融合を大事にしていくツンガポールを以ていくためには、自分を含め多くの木し中晃市民が努力をしていかなければならないと思った。

自然を守るためには、落ちているゴミを拾ったり、歯を磨くときは水を止めるなど、さりげない行動力が木し中晃や世界をより良くしていくんだということも感じることのできた2週間であった。

(終わりに)

・この派遣期間には自分が一人立ちした日寺と体験がこじができた。ホストファミリーがいるとはいえ自分の家族がいないとこのような気分になるものだ。"自立"ということかほんの少しだけ理解することかできた気がする。

シンガポールのごみ処理方法について

市立札幌開成中等教育学校
坪井 若菜

<はじめに>

私がこのテーマにしたのは、理科の授業で世界各国のごみ処理方法について学習した時に、各国によって大きく方法が違、たのでシンガポールの方法のほうがものか調査してみたいからである。

事前に調べたことは、シンガポールではごみの分別はほとんどせずダストシュートに入れているという事である。この情報はインターネットを利用して調べたもので、インターネットの情報だけでは不明確な事が多かった。

<シンガポールでの調査>

シンガポールでは、ホストファミリーに聞き取り調査をした。右の写真1はダストシュートの写真である。ごみの分別はせずにごみは全てダストシュートの中に入れていた。この方式はHDBのものである。HDBとは国が経営するマンションの事である。シンガポール人を対象にした公団団地の事だ。ダストシュートに入れられたごみは写真2の場所に集められ、毎朝トラックがごみを回収に来る。ここまでのシンガポールでの調査で分かった事である。

写真1



写真2



<まとめ>

インターネットの情報だけでは不明確な事が多い事がシンガポールの調査をしてみてつくづく感じた。そして、海外の情報なので不透明な情報も多く、信憑性に欠けると思った。なので、実際に現地に行き調査をしてみる細かい部分まで知る事ができ、とても良い経験になると思う。この調査結果から感じたのは、人口密度が世界二位だからこの方式が執り行われているという事である。人口密度が高いのでダストシュートに入れて一担集めてからトラックで回収という方法が一番合理的なのだと思う。ただ、分別がないのでごみの排出量が増えているのではないかと心配がある。

<おわかれ>

今回、シンガポールへ行く事ができて心から良かったと思う。現地に行く事で分かる事がたくさんあるので非常に勉強になった。今回の派遣で印象的だったのが、動物園で携帯電話を落として、なおかつ初期化してしまった事である。動物園は楽しかったが、今では初期化してしまった事が印象に強い。持ち物の管理には十分に気を付けるべきであると思う。

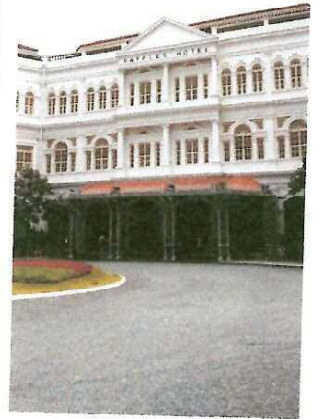
また、今回の派遣で学んだ事は一番大きかったのは「アイデンティティ」の尊重である。多民族国家であるシンガポールでは互いを尊重しながら生活していた。私もシンガポールの国人にならなくて違いを認め、受け入れられるような広い心を持つ生活していきたいと思う。

僕が訪れたシンガポールの有名な場所

札幌光星中学校
堂柿 駿

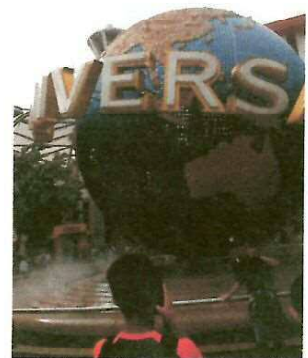
この研修テーマにした理由は、もともと建築などに興味があり、実際に見てみるのも好きだからです。

1つ目は「ラッフルズホテル」です。中に入ることはできませんでしたが、小説「謎解きはディナーのあとで」の舞台にもなった場所です。「シンガポール・スリング」という有名なカクテルの発祥の地でもあります。大人になったら飲んでみたいですね。



2つ目は「マーライオンパーク」です。その名の通り、この公園にはシンガポールのシンボルであるマーライオンが立っています。遠近法を使って、マーライオンと面白い写真を撮影できる人気のスポットとなっています。僕が行った日も、たくさんの観光客でにぎわっていました。

3つ目は、「ユニバーサルスタジオ・シンガポール」です。日本でもおなじみのユニバーサルスタジオはシンガポールにもあります。日本と比べると狭いらしいですが、スリル満点のジェットコースターなど魅力的なアトラクションがたくさんあったので、楽しい時間を過ごせました。





4つ目は、僕も楽しみにしていた「マリーナベイ・サンズ」です。最高部で高さ200m、屋上にプールがあることでも有名なホテルです。日本の企業も建築に携わったそうですよ。僕は実際にホストファミリーと56階の展望台に行きました。あいにくの雨天でしたが、シンガポールの風景をしっかりと写真におさめられたので良かったです。



展望台から撮った写真です。「ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ」などが見えます。遠くの海には船も浮かんでいますね。

他にも「シー・アクエリウム」や「シンガポール・フライヤー」、「シンガポール動物園」などたくさんの場所を観光しました。滞在中お世話になった、札幌市の引率の方々やホストファミリー、現地の担当者の方々に感謝しています。ありがとうございました。

<まとめ>

現地の建物などを見て気付いたことは、ユニークな形のものが多いということです。左右対称を好む日本の建築と違い、アンバランスな美しさを重視している建物はどれも新鮮で面白かったです。

